

## 1 はじめに

「中学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編」では、「総合的な学習の時間は、変化の激しい社会に対応して、自ら課題を見つけ、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育てることなどをねらいとすることから、思考力・判断力・表現力等が求められる『知識基盤社会』の時代においてますます重要な役割をはたすもの」であり、「その課題を踏まえ、基礎的・基本的な知識・技能の定着やこれらを活用する学習活動は、教科で行うことを前提に、体験的な学習に配慮しつつ、教科等の枠を超えた横断的・総合的な学習、探求的な活動となるよう充実を図る」ことが、求められている。これまでも大切にしてきた「探求的な学習」を行うことや、「協同的」に取り組む態度を育てることなどを明らかにして構成された学習指導要領の目標を受け、「県学校教育指導方針」や「日立の学校教育」においても、「探求的な学習としての充実」が挙げられてる。

また、「探求的な学習」における探求の過程は、「①課題の設定、②情報の収集、③整理・分析、④まとめ・表現」というおよその流れが明示されている。本校では、生徒の実態を把握するために、入学直後に「学力診断テスト」（過去の小学校6年生のための問題）を行った。国語科の必要な事柄を引用して自分の考えを明確にして書く問題では、提示された資料の読み取り方が不十分であったり、引用方法に不備があったりする誤答率が約60%であった。

これらのことから、総合的な学習の時間での探求的な学習の中で、「③整理・分析」に課題が見られる生徒がいることが予想される。そこで、上記のようなテーマを設定し、探求的な学習における整理・分析の力を高めたいと考えた。

## 2 指導案

(1) 単元名 「郷土『日立』」

(2) 目標

- ① 様々な体験活動を通して自らの課題を設定し、課題意識をもつことができる。  
(課題設定能力)
- ② 必要な情報を取り出し収集したり、他者の発表を自己に関連付けて聞いたりすることができる。  
(情報活用能力)
- ③ 友達と協力し、話し合うことができる。  
(コミュニケーション能力)
- ④ 収集した情報を整理したり、分析したりして思考し、課題解決することができる。  
(課題解決能力)
- ⑤ 活動した事柄を、自己の生き方に生かすことができる。  
(自己の生き方)

(3) 単元(題材)の設定に当たって

本校の1学年の総合的な学習の時間では、「郷土『日立』」をテーマに、自分たちの暮らしている日立市について調べ、まとめ、発表する学習に取り組んでいる。1

学期は、特別活動推進事業の集団宿泊体験で、高鈴山に登ったり、奥日立きららの里に宿泊したりという経験をし、郷土のよさを実感した。2学年では、体験活動や様々な人との関わりの中で、協調して生きることの大切さを実感し、自己の在り方を考えることができる力の育成を旨とする。3学年では、総合的な学習の総まとめとして、一人一人に関わるテーマを設定し、卒業論文にまとめる活動を行う。

地域との関わりが希薄になってきているといわれる現代において、意図的に様々な人たちと触れ合う体験活動を大切にしたいと考える。具体的な体験活動の一つは、キャリア教育と関連させた職場体験学習である。地域で様々な生き方をしている方の話を聞いたり、様々な職場で信念や情熱をもって働く方の話を聞いたりすることで、様々な生き方があることに気づくことができるであろう。

本単元では、人との関わりにおいて課題を設定し、体験活動を核として「生き方」に目を向けることで、自己の生き方を考え、よりよく生きようとする態度を身につけることができるよう支援していきたい。

本学年の生徒は、明るく素直な生徒が多く、課題にも真面目に取り組むことができる。しかし、互いに認め合う関係作りが苦手だったり、目先のことにこだわりすぎて、将来を見通して、今努力することができなかつたりするなど、教科の学習だけで補うことができない力が不足していると感じられる生徒が見られる。総合的な学習の時間では、学年の実態を踏まえ、何のために意見や考えを発表するのかという目的意識を明確にもたせることで、コミュニケーション能力を育てたい。さらに、情報交換を通して自分を振り返り、自己の生き方を考える中で、テーマを再検討させていきたい。

#### (4) 指導と評価の計画 (50時間扱い)

過程	学習活動	観 点 別 評 価				
		課題設定能力	情報活用能力	コミュニケーション能力	課題解決能力	自己の生き方
課題の設定 (5)	学習のねらいと方法を知る。 ・ガイダンス ・イメージマップ作り ・集団宿泊体験 ・地域に学ぶ	・学習・体験から得たものをもとに、テーマを設定することができる。(観察・ワークシート)			・自ら課題を見つけて、意欲的に取り組むことができる。(観察・ワークシート)	
情報の収集 (20)	各自のテーマを追求する。 ・生き方について学ぶ。 ・テーマ決定 ・テーマの再検討	・計画に従って課題を追求することができる。(観察) ・活動の中から新たな課題を発見し、意欲的に取り組むことができる。(観察)	・様々な体験活動から得られる情報を、目的に応じて取捨選択し、課題追求することができる。(観察)	・体験活動を通して、様々な人と意欲的に接しようとする。(観察) ・様々な体験学習や調べ学習において、友達と比較検討しながら、意欲的に取り組むことができる。(観察)	・日立の文化や歴史などを意欲的に調べ、インターネット等を活用して調べることができる。(観察・ワークシート)	・適切な言葉遣い、礼儀やマナーを実践することができる。(観察)
整理	各自のテーマに	・発表に向けて、これま			・他の人のまとめ方、発	・学習活動を適切な方法





### <集団宿泊体験>

高鈴山の登山や奥日立きららの里など、身近にありながらも触れる機会が少なかった地域の自然や施設での体験は貴重な経験となった。

### <地域ふれあい交流会>

地域の方を招いてのふれあい交流会では、レクリエーションや会食をしている。地域の昔の様子や、現状についての話を聞くことで、調べてみたい内容がより具体的になっていった。



### (2) 情報収集のための活動例



<現地調査>



<学校図書館の利用>



<インターネットの利用>

### (3) 整理・分析のための活動例



### <職場体験学習発表会の参観>

2学年の「職場体験学習発表会」をポスターセッション形式で行い、その様子を1学年が参観した。地域の事業所について知り、身近な職業について関心をもつようになるだけでなく、整理・分析した内容のまとめ方についても学ぶことができた。

## 4 成果と課題

収集した情報を整理したり、分析したりして、思考する活動へと高めていくことを期待し、学習活動を進めてきた。集めた情報自体はつながりのない個別なものであるが、それらを種類ごとに分けるなどして整理したり、細分化して因果関係を導き出したり、多面的・多角的な視点で分析したりする活動を位置づけることができた。しかし、資料をそのまま写すだけの生徒も多いため、それらを深めるための学習方法を検討していきたい。また、各教科で身につけた方法を生かした整理・分析の方法を取り入れられるよう、教科間の連携をさらに図っていきたい。例えば、国語科では「図表を有効に使おう」という単元で、伝えたい内容にあった形式を選んでまとめることを学んだり、「調べたことを伝えよう」という単元で、テーマの設定の仕方や構成を工夫したレポートの書き方を学んだりしているので、それらを総合的な学習の時間と関連させたい。そして、単元計画や年間指導計画で期待した生徒の姿と、学習活動に取り組む生徒の姿とのズレが見られることがあるので、今後も、単元計画や年間指導計画の修正を行う必要がある。